

「自信持ち甲子園で暴れる」 光星野球部員ら本社来訪



第104回全国高校野球選手権（8月6日開幕）に出場する本県代表の八戸学院光星硬式野球部が27日、青森市の東奥日報社を訪れ、3年ぶりとなる夏の甲子園での活躍を誓った。

訪れたのは、同校の中村良寛校長、同部の仲井宗基監督、小坂貴志部長、主将の洗平歩人投手、中軸を担った織笠陽多外野手と野呂洋翔内野手の6人。菊地幹編集局長らと

甲子園での健闘を誓う八学光星の（左から）仲井監督、野呂、洗平歩、織笠の3選手、中村校長。27日午前、青森市の東奥日報社（撮影・斎藤義隆）

奥丁画
東NE動



懇談した。

青森大会では、多くの接戦を制して決勝まで勝ち上がった八学光星。頂点を決める八工大一戦では、これまで振るわなかった打線が15安打と爆発。最後は相手の猛追を振り切り、3年ぶり11回目の優勝を飾った。

仲井監督は、新型コロナウイルス下にあった3年間を振り返り「3年生にとってはコロナに翻弄（ほんろう）される日々だった。これからも厳しい大会になる。だからこそ、そこで勝ち抜いたという自信を持って甲子園で暴りたい」と語った。

洗平歩は「プレッシャーのかかる登板や打席もあつたが、（部員）一人一人がそれを乗り越えて、結果に結びついた」と総括。七百中出の織笠は「中学校の人たちに勇気と感動を与えるような

試合をしたい」、木造中出の野呂は「新聞記事を見た方からの応援が励みになった。甲子園でも活躍して、記事に載せてもらえるように頑張りたい」と決意を新たにしていた。この日は県庁も訪れ、青山祐治副知事らに甲子園出場を報告した。ナイロンは8月1日、現地に向けて出発する予定。組み合わせ抽選は同3日。（安達一将）